

ごめんね



by **Kazutaro FUKUSAKI**

あれだね、ふらふらと根無し草のような旅を続けていると、なんかね、捉えどころの無い不安感ちゆうか、浮遊感、みたいなものを感じる時があるね。特に日没時にそれを多く感じるようだな。

単なるホームシックとちゃうんですか？

そうだよ、ホームシックだ。しかも家に帰ろうと思えば、日本国内なら3日もあればたいてい帰れるわけだからね。チャチなモノだ。

でね、考えたいのは、なぜ日没なのか、という事。

はあ。

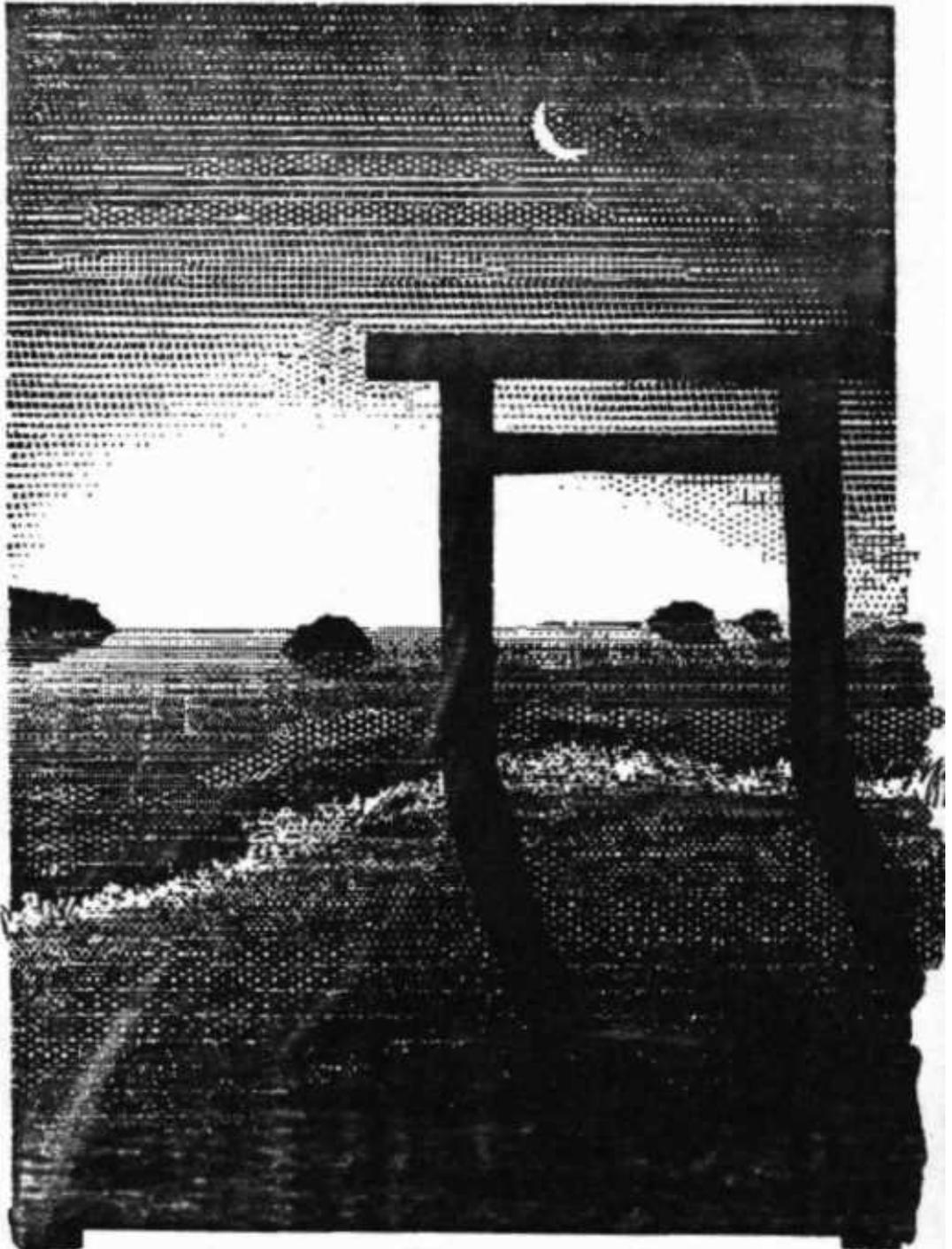
おもうに、日没というのは、力の象徴である太陽の消滅、未練の象徴である残照、迫りくる死の象徴・闇。これらが無段階的な色彩変化とともに我々の目の前で静かに進行していくわけだよ。でね、僕は最近になって気付いたんだけどね、一日のうちで最も時間を感じさせてくれるときじゃないのかな、日没というトキは。

はあ。

いいかえれば、人生の何億分の1の時間がサササッと経過してしまった、と。そして今までにもう、人生の何分の1かは経過してしてしまった、と、当り前の事を感じさせてくれるトキなんじゃないかな。だから切ない。胸を締めつけられるように。そして、自分はこんな所でいったい何をしているのだろうって、旅先での孤立感が切なさを増幅させる・・・。

悔いの残る人生を送ってきた人だけじゃないすかね。

・・・多かれ少なかれ、人は後悔を引きずって生きているのではないかな。表に出てこない様々なおもいが、静かに滲みでてくる、そんなトキなんだよ。



第4回 瀬戸は日暮れて

月の傾きが逆ですな…